

熊本商工会議所・第31回 経営動向調査

平成16年3月期 結果報告書

業況DI マイナス35.8 対前期比6.6ポイントの悪化

～全体的にやや悪化の傾向～

調査結果のポイント

全業種の業況DIはマイナス35.8となり、前回(平成15年12月期)調査との対比では、マイナス6.6ポイント。前回調査まで3期連続して好転傾向を示していたものの、今回調査はマイナスの結果となった。しかし、対前年同期比では、マイナス38.0と低調ながら3.0ポイントプラスの好転を示した。

対前期比において前回(12月期)調査から業況が好転したのは、製造業のみの1業種が26.9(プラス5.1ポイント)であった。

また業況が悪化したのは、小売業が55.3(マイナス20.6ポイント)と大きく悪化。飲食業が63.6(マイナス9.1ポイント)、建設業(土木)が38.9(マイナス5.6ポイント)、建設業(職別・設備)が4.2(マイナス4.2ポイント)、卸売業が39.1(マイナス3.6ポイント)、サービス業が26.3(マイナス1.9ポイント)の6業種であった。

今回の調査で業況を全体的に見ると、やや悪化の傾向となり、業況DIは依然としてマイナスの低水準となった。特に小売業は、今回、大きなマイナス幅となり厳しい結果となったが、この要因としては、年末需要期の反動など季節的な需要変動も悪化の一因と思われる。

調査対象期間 平成16年1月～3月(平成15年度第4四半期)

調査期間 平成16年3月8日(月)～12日(金)

調査対象数 熊本市内 小規模企業 292事業所

回答数 188事業所(回答率64.4%)

(小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業)

(業種別回答状況)

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	27	73.0
建設業(土木)	22	18	81.8
建設業(職別・設備)	34	24	70.6
卸売業	35	23	65.7
小売業	71	47	66.2
飲食業	23	11	47.8
サービス業	70	38	54.3
合計	292	188	64.4

DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(12月期)調査と比較した概況

全業種

受注・販売単価が横ばいのなかで仕入単価はやや悪化。売上高は大きく悪化し、営業利益も大きく悪化した。全体の業況は依然として厳しいマイナスの状況にあり、前回(12月期)調査からやや悪化した。

業況D Iの変化 15年12月期 29.2 16年3月期 35.8

製造業

受注単価が改善したなかで仕入単価は悪化。売上高がほぼ横ばいながら、営業利益は大きく悪化した。全体の業況は、やや改善した。

業況D Iの変化 15年12月期 32.0 16年3月期 26.9

建設業(土木)

受注単価、仕入単価ともに悪化。売上高がやや悪化したものの、営業利益は改善した。全体の業況は、やや悪化した。

業況D Iの変化 15年12月期 33.3 16年3月期 38.9

建設業(職別・設備)

仕入単価がやや悪化のなかで、受注単価はほぼ横ばい。売上高がほぼ横ばいながら、営業利益はやや悪化した。全体の業況は、やや悪化した。

業況D Iの変化 15年12月期±0.0 16年3月期 4.2

卸売業

仕入単価はやや改善したなかで、販売単価も改善。売上高が大きく悪化し、営業利益も大きく悪化した。全体の業況は、やや悪化した。

業況D Iの変化 15年12月期 35.5 16年3月期 39.1

小売業

仕入単価が横ばいながら、販売単価は悪化。売上高が大きく悪化し、営業利益も大きく悪化した。全体の業況は、大きく悪化した。

業況D Iの変化 15年12月期 34.7 16年3月期 55.3

飲食業

販売単価、仕入単価ともに改善。売上高がやや悪化した。営業利益は横ばいであった。全体の業況は、悪化した。

業況D Iの変化 15年12月期 54.5 16年3月期 63.6

サービス業

販売単価、仕入単価ともにやや改善。売上高が大きく悪化し、営業利益は大きく悪化となった。全体の業況は、やや悪化した。

業況D Iの変化 15年12月期 24.4 16年3月期 26.3

業種別の業況一覧

上段=対前期比

下段=対前年同期比

業 種	今 回 調 査 (平成16年3月期)	前 回 調 査 (平成15年12月期)	比較ポイント
全 業 種	35.8	29.2	6.6
	38.0	41.0	+ 3.0
製 造 業	26.9	32.0	+ 5.1
	34.6	24.0	10.6
建 設 業 (土 木)	38.9	33.3	5.6
	38.9	44.4	+ 5.5
建 設 業 (職別・設備)	4.2	± 0.0	4.2
	4.2	18.2	+ 14.0
卸 売 業	39.1	35.5	3.6
	39.1	40.0	+ 0.9
小 売 業	55.3	34.7	20.6
	53.2	65.3	+ 12.1
飲 食 業	63.6	54.5	9.1
	72.7	45.5	27.2
サービ業	26.3	24.4	1.9
	31.6	33.3	+ 1.7

来期(4月~6月期)の業況見通し

全業種における来期(平成16年4月~6月期)の業況見通しDI値は、15.9と今期(16年1~3月)の業況DI値35.8と比較して19.9ポイントのプラスとなった。全体として回復期待感が大きい業況見通しとなった。

業種別では、来期の業況見通しDI値と今期の業況DI値を比べプラスとなった業種は、製造業を除く、建設業(土木)建設業(職別・設備)卸売業、小売業、飲食業、サービス業の6業種で、特に小売業、卸売業、飲食業、サービス業では、大きい期待感がうかがえる結果となった。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業種	来期業況見込み (16年4~6月期)	今期の業況 (16年1~3月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	15.9	35.8	+19.9
製造業	28.6	26.9	1.7
建設業(土木)	31.3	38.9	+7.6
建設業(職別・設備)	±0.0	4.2	+4.2
卸売業	4.8	39.1	+34.3
小売業	11.6	55.3	+43.7
飲食業	40.0	63.6	+23.6
サービス業	16.1	26.3	+10.2